

(1) (d) (第2問B 第1段落)

→ literature は「文学」という意味の単語である。しかし、この単語の派生語は多く意味を正確に覚えなければならない。

- literary: 「文学の」
- literature: 「文学」
- literal: 「文字通りの」
- literally: 「文字通り」
- literate: 「読み書きができる、教養がある」
- literacy: 「読み書きの能力、教養」
- illiterate: 「読み書きできない、教養のない」

(2) (c) (第5問 第3段落)

→ determine の原義は「決める」。それが派生して determined は「すでに決めた」→「決心した」となる。

(3) (b) (第6問A 第6段落)

→ ambassador は「大使」や「親善使節」という意味を持つ。「大使」は外交使節官の最高位としての意味でも、観光大使のような象徴的な意味でも用いられる。今回の例文では学生の話をしているため、親善使節というのは違うことがわかる。

(4) (a) (第6問B 第2段落)

→ process は「処理する、加工する」という意味である。ワープロはワードプロセッサ、つまり「文字を処理する機械」という意味である。possess は「所有する」、obsess は「取り憑かれてる」、recess は「休暇・休憩」を意味する名詞である (-ed の形は存在しない)。recess だけアクセントが第1音節にあることも知っておくとよい。

(5) (c) (第6問B 第5段落)

→ 「発生させる」という意味を持つのは generated だが、yield も「生み出す」という意味がある。しかし、yield は要注意の動詞で他動詞と自動詞で意味

が異なることで有名である。他動詞は「産出する、もたらす」という意味なのに対し、自動詞は「屈する、譲歩する」という意味である。yield は「(作物・製品・収益を) 生み出す」だからこの文脈には適さない。

(6) (b) (第2問B 第2段落)

→ 所有格についての理解を問う問題。訳が「学生たち」となっていることから複数形であることがわかる。複数形に所有格の's をつけて students's としたいところだが、s で終わる複数形の場合はアポストロフィー (s') をつけるだけでよいという決まりだった。

(7) (b) (第4問 第2段落)

→ 逆接の接続詞の問題。In spite of は Despite と同じ意味である (of までついて同等)。In spite of/Despite の後には名詞節がくる。それに対して、Though と Although の後には SV (主語 + 動詞) がくる。In spite of/Despite を Although/Though と同じように使いたければ、In spite of the fact that SV... とすればよい。

(8) (d) (第3問B 第1段落)

→ custom には「慣習」という意味の他に空港や港にある「税関」という意味もある。この「税関」の意味で使われる時は必ず複数形で使われる。今度海外旅行に行くときに空港で探してみるとよい。

(9) (c) (第6問A 第5段落)

→ lack の用法について問う問題。lack には自動詞的な用法と他動詞な用法と名詞的な用法がある。自動詞的な用法の時は in が前置詞としてつく。in は進行形で用いられる。また、名詞として用いる時は of がつく。

(10) (b) (第6問B 第3段落)

→ help の用法について問う問題。自動詞として help を使う場合は help in/with doing (進行形)、または help

to do (原形) のいずれかである。